

第6回 新市立伊勢総合病院建設基本計画策定委員会
議 事 録(要旨)

平成25年1月7日

第6回 新市立伊勢総合病院建設基本計画策定委員会

日時 平成25年1月7日(月)午後7:15~午後8:10

場所 伊勢市役所 東庁舎4-3会議室

委員出席者 伊佐地秀司委員、松本純一委員、畠中節夫委員、寺本喜宥委員、
渡辺和己委員、鈴木まき委員、松下裕委員、藤本昌雄委員
以上8名

委員欠席者 福田幸弘委員

出席者 市長 鈴木健一

事務局	市立伊勢総合病院	副院長	原 隆久
	市立伊勢総合病院	副院長	池田 健
	市立伊勢総合病院	理事	西井正美
	市立伊勢総合病院	事務部長	佐々木昭人
	市立伊勢総合病院	事務部参事	下村浩司
	市立伊勢総合病院	総務課副参事	今西清貴
	市立伊勢総合病院	新病院建設推進課長	成川 誠
	市立伊勢総合病院	新病院建設推進課副参事	久田浩之
	市立伊勢総合病院	新病院建設推進課係長	北村 守
	市立伊勢総合病院	経営企画室長	佐々木一晃
	市立伊勢総合病院	医療事務課長	酒井幸久
	市立伊勢総合病院	栄養管理課長	梶原好美
	市立伊勢総合病院	健診センター室長	富山孝久
	健康福祉部長		山本辰美
	健康福祉部次長		鈴木正人
	健康福祉部健康課長		岩佐 香
	情報戦略局長		森井 啓
	情報戦略局行政経営課副参事		鳥堂昌洋
	都市整備部参事		谷口 尚

議事録署名 松下委員・渡辺委員(議長指名)

会 議 状 況

○司会進行 事務局

○開会挨拶 市長

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ致します。これまで市立伊勢総合病院の方向性についてご支援頂き、感謝を申し上げます。建設地の選定については、検討に時間を要してきましたが、ようやく皆様方にご報告させていただくことができます。年末に伊勢病院の方向性を定めるため、気持ちを込めて桜井市にある狭井神社にお参りしました。医療と健康の神様がおられるとのことで、新しい病院を建てることを決める前にも狭井神社に祈願し、これまで以上に市民の健康と地域医療の発展を願いました。本日もご議論、よろしくお願ひ致します。

○議事（１）新病院建設地の選定について

（資料１）『新市立伊勢総合病院の建設地の選定について』に基づき、事務局より説明

（資料２）『新市立伊勢総合病院の建設地の選定について』に基づき、事務局より説明

議長 新病院建設地の選定について、最終的に現在の市立伊勢総合病院の敷地を拡張して建てることになる。また、その具体的な収支計画の見通しが示された。只今の説明について、質問やご意見はあるか。

- 委員**
- ・ 病床利用率が 87.7%と非常に高く設定されている。相当な努力をしないと病床利用率の達成は難しいと考える。努力次第で病床利用率の数値が変わるため、職員の皆様方には力を合わせてがんばってほしい。緩和ケアやリハビリ、療養は病床利用率が高いと聞いているが、このような病床の運営に頑張ってもらいたい。
 - ・ 病院の収入は医師次第なので、良い医師の確保に尽きると思う。医師のモチベーションが重要であるので、医師のモチベーションをもっと上げる工夫を考えてほしい。それだけで、医師 1 人あたりの収入というものは、全然違ってくる。
 - ・ 診療報酬の請求の仕方で収入が左右すると聞いているので、きちんとした診療報酬の請求方法の確立が求められる。
 - ・ 回復期リハビリ等をうまくアピールして、病床利用率を高くできるようにしたい。回復期リハビリは今年の 9 月から 30 床で発足するので、様々な研修を計画している。他の施設にもアピールしながら、喜んでもらえるようにしたい。
 - ・ 医師の確保について、昨年の暮れからの奨学金制度で当院に 2 人の志望者がいる。他に県の奨学金を受けている方が 200 名以上いるので期待したい。また、医師が働きやすい、働いて良かったと言われるような研

修体制、コメディカルについても同様にスキルアップができる研修体制を整えたい。

議長 その他、ご意見はあるか。現在伊勢病院は、研修医が 2 名、大学から来ている。彼らの初期研修後の去就はまだ決まっていないが、初期研修医が増えてくれば 3 年目以降も残ってくれる可能性があるので、研修医をきちんと確保することは大切である。

医師のモチベーションを上げていくことについて、大学病院での取り組み事例を紹介する。大学病院では毎日、各科別の病床利用率がメールで知らされる。また、月に 1 回の科長会議で各科の売り上げ情報も知らされる。これらにより、病床利用率が上がってきた。請求漏れについても電子カルテを導入してからかなり少なくなった。そのような情報が毎日届くと、職員に頑張らなければならないという意識が出てくる。

委員 ・ 各科の売り上げは毎月の会議で提示している。また、患者数については科別ではないが、病棟別に毎日提示している。議長が言われるように、医師のモチベーションを上げる取り組みをしていきたい。

議長 意見も出揃ったので、事務局の計画案を承認したいと思う。それでは新病院建設地については、委員会の承認とする。

(追加資料)『新市立伊勢総合病院建設基本計画(案)』に基づき、事務局より説明

議長 92 ページまでは前回で説明と検討が済んでいるので、93 ページ以降について質問があるか。私からは、敷地拡張について再度、具体的に説明をお願いしたい。

事務局 93 ページの図について、今まで説明した資料では取得する土地の中央部分が抜けていたが、ここは当初、市の所有地との認識であったため、用地取得の必要はないと考えていた。しかし、再調査で個人の所有地と判明したため、その部分も取得することとなった。

委員 ・ 起債の償還計画について、きちんと返済できるということを市民に納得してもらう必要がある。市は返済がきちんとできることを想定するべきである。

事務局 102 ページの下部、一般会計繰入金欄で、開院年度が 10 億円の繰り入れ、その後 8 億円、7 億円という金額設定となっているが、開院当初は医療機器費用に対する起債償還により、一般会計からの繰り入れも多く必要となる。しかし、平成 36 年度以後は 3 億 8 千万円程度の繰り入れで収支均衡となる。借入金の償還をした上で、4 億円程度の繰入金額でやり繰りができることになる。

委員 ・ 一般会計からの繰り入れを良しとしない、一般企業だったら潰れてい

るのではないかと考える市民もいる。新病院となっても、現状通り繰入金を想定した収支計画とするのか、それとも、新病院ということで心機一転して頑張る収支計画を立てるのか。

事務局 ご指摘の通り、職員一丸となって再生していくことが必要である。繰入金の数字というのは、不良債務を出さないための必要な金額として示している。当院は現状では5億5千万円の繰入金の他に、さらに追加で繰入金を入れている状況である。この追加の繰入金はなんとかしないといけない部分である。

議長 繰入金というのは、毎年変動するものであるのか。それとも、決まっているものなのか。

事務局 繰入金には基準内繰入と基準外繰入がある。基準内繰入で済んでいる場合は、経営が健全であるといえる。しかし、当院は基準外繰入も行っている状態である。

議長 基準内繰入はどの程度か。

事務局 市町村によって様々である。当院は現在、健全経営を前提に市の一般会計担当部局と詰めている最中である。

議長 そのあたりは過度な内容ではない程度で補助を出してほしい。一見、補助が多いように見えるが、市民病院であるため、ある程度の補助が必要なことは理解できる。

委員・ 看護師が増加する設定となっているが、離職率はそれほど高くはないのか。

事務局 離職率は全国平均より低い数値となっている。

議長 それでは、意見も出揃ったようなので、基本計画案は了承とする。

○議事（２）スケジュール変更（案）について

（資料３）『スケジュール変更（案）』に基づき、事務局説明

議長 ２月にパブリックコメントを実施し、その間に４回の市民説明を実施、その後の３月の初旬から中旬に基本計画の策定を終了するとの流れであるが、これでよろしいか。

（異議なし）

議長 それでは今後のスケジュールやその他の事項については、了承とする。

事務局 ３月の策定委員会の日程は再度調整し、決まり次第、事務局から案内を行う。

議長 本日はこれにて終了とする。

<閉会>